

エンドウの栽培法

2011/10/10

特性

エンドウは日当たりがよく、水はけのよい場所が最適で酸性土壌を嫌うので石灰、堆肥を十分に施し、深く広く耕して高めの畦作りをしておく。又、いや地の激しい作物であるので連作は避けることが大切、4~5年は同じ場所を避けたいもの。

タネまき

エンドウは小苗のうちなら寒さに強いが、早くまいて苗が育ち過ぎると寒さに負けて枯死するので、秋遅く(10月末~11月)タネまきをして小苗で越冬させることである。うね巾90cm、株間30cm(ツルなし種は75×20cm)を標準に1穴3~4粒ずつまく。

施肥

エンドウは酸性土壌を大変嫌うので必ず石灰をタネまき前10日頃までに1㎡につき200g施し、深耕すること。肥料は窒素は少くリン酸を主体として施し、草木灰等(カリ分)を多く施す。

手入れ

降霜の多いところでは霜除けが必要で盛土やササ竹立てで防寒をする。春になってツルあり品種では支柱が必要でワラなどでツルを誘引する。

収穫

サヤエンドウはサヤが硬くならないうちに収穫する。実エンドウはグリーンピースで食べる。

